

日本

# ハンザキ研 研究所ニュース 2009(5) : 通巻 No. 41



発行 2009年5月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax:079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

HP URL:<http://www.hanzaki.net>

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

ハンザキ研をめぐるスター⑦

## イノシシ

イノシシは旨い。冬になると牡丹鍋として、もてはやされる。ハンザキの調査地である生野には民宿などで賞味できる。アマゴの養殖池にイノシシが放り込まれているのを見て驚いたが、ダニ退治と死後数日たつと肉がよりうまくなると言うことだった。気になるのは頭の行方だった。聞いてみると生ゴミとして処分していると言うので、もったいないからとクール宅急便で送ってもらった。なかなか信用してもらえなかったが再々お願いして4つの頭が2つのシカの頭と共に送られてきた。ウミガメの骨格標本を作るために水に漬けて腐らせていたが、骨の内部の脂肪を取り除くのが難しかった。そこで、水が漏れて使えなくなった水槽の中に頭を入れてハエに卵を産みつけさせると、あっという間にウジが湧いて(生まれてくるのであって湧くのではないのですが)きれいに食べ尽くしてくれる。



この写真は奇麗に出来上がったイノシシの頭骨である。3つは同好の好き者にプレゼントして、残った1つがハンザキ研に展示されている。その標本のキバを触ってみるとナイフのように研ぎ澄まされている。上下のキバをこすり合わせて研いでいるようで、これなら猟犬の腹を割いてしまうという話も納得がいく。触れてみる見学の皆さんも驚き感心し納得している。こんなことは実際に標本を作り触ってみないと分からないことだ。それにしてもこの骨格標本の、外見とは異なるスマートさは家畜のブタとは格段の差が有って、さすがは野生の生き物だなと思う。夜間調査中に、川辺の竹林から枯れ枝をペキポキとへし折りながら地表に出るか出ないかくらいの旨いタケノコを掘って食っている奴だ。



写真1 75kgの大イノシシの牙



写真2 腐乱死体のマイクロチップ



写真3 Forever オオサンショウウオ・シンポジウム in 伊賀・青山



写真4 ハンザキの健康診断風景



写真5 カニ籠の餌袋の使用前(左)後(右)

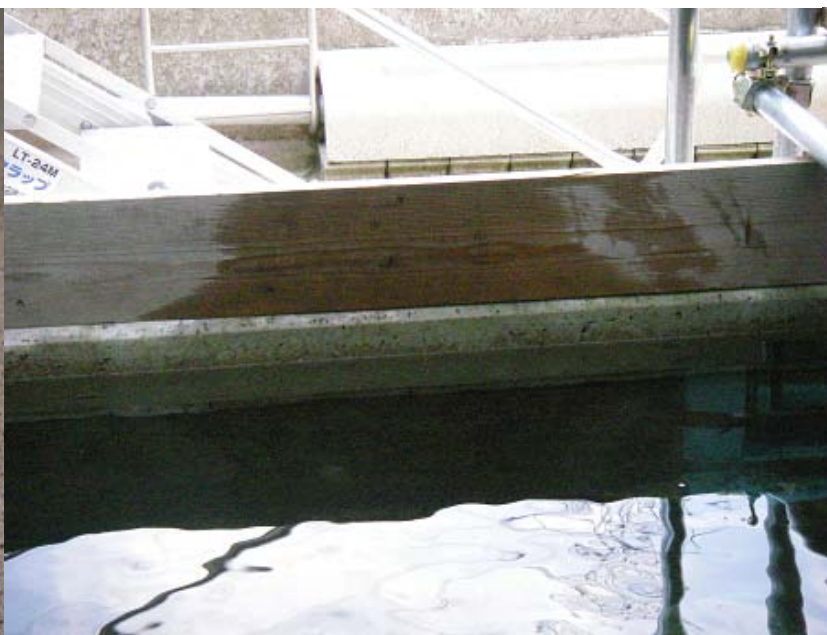


写真6 鴨川ハンザキの脱走痕(40cmの壁を乗り越えた)

## オオサンショウウオ・シンポジウム in 伊賀・青山(三重県伊賀市)

皆さんは、淀川水系流域委員会からの「ダム・ノー!」という提言がなされたことをマスメディアなどでご存知のことと思います。学識経験者からなる委員会の画期的な提言として各地におけるダム建設へ大きな影響を与えることになりました。私は素人ですから本当にそこにダムが必要なか不要なのか判断は出来ません。しかし、河川環境にダムが完璧なダメージを与えてしまうことは分かります。それでも、陸上の赤潮生物となっている我々人間には、ダムが必要なかもしれません。でも、生き物の保護保全を願っている人間としてはダムは困り物ですから、できれば無いほうが幸いです。

ところで、この淀川水系の木津川支流川上川にダムの建設が計画されています。ダムの水を使う予定の府県の知事さんもこのダムの建設はやむなしとしています。問題はダム堤体が建設される付近には多数のオオサンショウウオの生息が確認されていることです。水資源機構では委員会を設置し十数年前から調査を行い対策などの検討を実施してきました。これも異例なことで建設側の姿勢が評価できます。私はこの委員会には参加していませんが時々オブザーバーとして出席し意見を述べてきました。

8年間委員をされていた木津川源流研究所の川上さんからシンポジウムを開催するので発表とパネラーをとの依頼がありました。構成はダム推進側と反対側、そして物言わぬハンザキの立場を代弁する立場のメンバーだと言うことで引き受けました。私はハンザキの生態と現状、兵庫県における取り組みについて紹介することになりました。ただ、残念なことに川上ダム建設事務所からの報告が断られてしまったことです。事前の根回しが十分でなかったことや、近々に委員会が予定されていると言うことでしたが、長年にわたる調査や対策、ダムの必要性などを報告していただけたら更に素晴らしい会になったことと考えられます。上部組織の近畿地方整備局には、国交省姫路河川国道事務所の宮武前所長や井上前々所長など、環境に深い配慮を示された(揖保川水系流域委員会において)方々がおられるので本当に惜しいチャンスを逃がしてしまったと思います。対立するだけではなく同じテーブルについてお互いの意見考え方を出し合い、互いに納得できる方向に進めることが大切だと思います。

兵庫県における取り組みは他の府県に比べると格段のものがあると私は思っています。平成2年災害の養父市建屋川では、先進的な配慮を実施して、今後の河川工事に際しての大きな啓発の役割を果たしたと考えています。ただ、私のような水族館の飼育の現場の人間は、土木工事などでは全くの素人です。その素人の無茶な提案に対して玄人の土木の皆さんがどのようにクリヤーして見せるかと言う所がポイントになるものと思っています。土木の皆さんは「出来ない」「危険だ」「金がかかりすぎる」という3つの言葉を使われることが多いのですが、土木のプロとしての誇りをかけて挑戦してください。そうすることによって、より良い方法が模索され工法が確立されていくのだと思います。

平成16年災害の豊岡市出石川では、建屋川の前例を踏まえてより良い川づくりに挑戦しました。昨年に竣工しましたので、今後の追跡調査の結果が待たれる所です。更に、現在進行中の朝来市市川本流竹原野の工事では、数百メートルという狭い範囲の工事ですが徹底した護岸の空隙

作出が試みられています。河岸の複雑な空間は多くの河川生物にとって重要な場です。それぞれの体にあった空間を確保できるかどうかは生き残りにも、繁殖にも大きな影響を与えることとなります。

兵庫県における主な事例の紹介をしましたが、実際の現場を見ないとなかなか理解していただけないかもしれません。しかし、兵庫ではこんなに色々な試みが行われていて、工事後にも、その対策を追跡調査によって検証し次の工事に役立てると言うことは分かっていたと思います。今は、試行錯誤の時代だと思っており、何もしなければ従来どおりのコンクリートブロック積みの護岸が作られてしまいます。とにかく何らかの空間を作り出す工夫をしておけば、何かが使ってくれることだけは確かです。

シンポジウムは、150名もの参加があり有意義な会でした。オオサンショウウオのシンポジウムは今までも、兵庫県養父町(1991年)篠山市(1993年)島根県瑞穂町(1995年)大分県院内町(1997年)などで開催されてきましたが、各会共にハンザキの存在をクローズアップさせることが出来たと思っています。川上ダムが建設されることになるのかどうかは分かりませんが、そこに生息する沢山のハンザキとそれを支える豊かな生態系の構成員たちが、生き続けてくれることを願ってやみません。

.....

## お知らせ

### ① 特別天然記念物オオサンショウウオ生息分布調査報告書

愛知県瀬戸市では、文化庁の補助を受けて庄内川支流蛇ヶ洞川(じゃがほらがわ)水系におけるオオサンショウウオの生息状況を3年かけて調査しました。その結果を今年3月に、88ページの報告書として刊行しました。入手希望の方は下記へ連絡をしてください。

(有料での部数に限りがあります)

愛知県瀬戸市白山町1-46 瀬戸市埋蔵文化財センター内文化財係(〒489-0871)

電話 0561-21-1951、E-mail:i-hattori@city.seto.lg.jp

### ② オオサンショウウオの健康診断

当・ハンザキ研では生野ダム下流の河川工事現場から一時避難収容しているハンザキ88個体の健康診断を毎月10日前後に実施しています。プールの水を落として全個体の全長や体重を測定し、寄生虫や傷などの有無をチェックします。多数の飼育では、一匹ずつ餌を与えることが出来ませんので、体重の減少程度を見ながら痩せてきた個体は、隔離して餌を付けます。痩せてくると瞬発力が低下するために、ますます餌を捉えることが出来なくなり、更に弱っていきます。3年間もの長期に渡る保護飼育ですので、滅失(死亡)をできるだけ少なくしたいと頑張っています。水なしで間近に観察できますので、この機会においでください。10時から15時頃までの作業です。

## カニ籠トラップを使った調査

夜間調査をサボっている最近ではあるが、川のカニ(モクズガニ)などを捕獲する漁具が市販されている。これを昼間の内に川の中にセットしておく翌日には大物のハンザキが入っている。こんな楽ちんな調査方法は無いぞとばかり、月例で実施している。本当の目的は、ハンザキ橋下流のアンコ淵の繁殖巣穴へ9月の産卵期に集合してくるパーティの構成者を登録することである。普段は、主以外の個体はほとんど観察できないが、8月頃からドンドン増えていく。4月に4年間も主として皆さんにも名前を覚えていただいた「黒主」から全長92㌢のNo.692に主が変わってしまったが黒主も近くで隙あらばと復帰を狙っているようだ。

ところで、このカニ籠漁具は使ってみて気が付いたことがある。借用した籠の中に餌入れの袋が無くなっているものが幾つかあった。どうもハンザキの腹の中に入ってしまったようだ。ハンザキは咬みつくと噛み切れない場合には体を回転させる。くわえたままで籠の中で奮闘中の個体や、餌袋がギリギリ巻きになっていて、ハンザキは諦めて去っていった(カニ籠は大型動物のハンザキには小さいため、全身が入らなかったために逃げてしまった?)と考えられる物があった。

また、窒息しないように浅い場所にセットして網籠の一部が空中に出るように設置しているが、外から何者かが餌袋を引き出しているものもあった。餌袋を下側になるように籠をセットしないとイケないようだ。

.....

## ハンザキ所長のツブヤ記録

高砂の白陵中・高の生物部員が西口教諭と見学にやってきた。一通り構内を見学した後に、まだ水温が10度になるかならないかの冷たい川の中に入っただの調査だ。魚が得意な生徒やヤゴに目の無い生徒など、皆何かに執着を持っていて川から上がってこない。45年ほど前の新米教師と芝学園の生物部を目の当たりにする思いだった。好きなことが思いっきりできるというのは素晴らしいことだ。余分なことは考えもしないでひたすらに突き進むことが出来れば幸せだろう。だが、現実はその甘くは無いのも事実だ。私のように、生き物のことしか頭に無く、“でも・しか教師”として2年間遠回りしたが、それもいい経験だった。狭い門の中でも更に狭い飼育係になることが出来たことは運が良かったとしかいい得ない。40年間の水族館生活は、現在のハンザキ研の中にも生かされていることが多く、何でも経験しておくことが大切だと思う。水族館に工事でやって来た色々な職人にも、煩がられながら沢山の技術を知識を教えてもらった。職人泣かせじゃとボヤかれたこともあつが、本物の職人は親切で長年かけてたき上げた術を惜しげもなく教えてくれたものだった。水道配管・大工・左官・ガラス職・電気工・溶接工・フェンス工までいろいろ助かっています。

ハンザキ研日誌

2009年5月

- 2日 ゴールデンウィーク期間中の公開～6日(見学者241人)
- 3日 白陵中・高校生物部・西口教諭と生徒5名、一日在所
- 4日 モニター配線が研究室へ繋がる  
市川支流の長野川の掃除中に全長245mmの5歳?の未成年体搬入
- 5日 東京の共同通信記者 Mr.T.Jonson が夫人と共に来所
- 6日 河川ステーションのはんざきブロック内から鴨川ハンザキ1個体を収容(オオサンショウウオ保護センターから脱走していたのだ!)
- 9日 オオサンショウウオ保護センターの水面に油膜(2号ポンプの油漏れ)
- 10日 春のトレッキング(野鳥観察会)日本野鳥の会の脇坂レンジャーのガイドによって直谷ルートで実施(参加者7名)19種確認
- 11日 バイク事故の音が響いたので、自転車で駆けつける。ケータイ圏外の地なので
- 12日 日立造船ヒツの松井課長、オオサンショウウオの保護対策について来所
- 14日 オオサンショウウオ保護センターの2号ポンプ修理
- 16日 NPO 法人の事務局会議(7名参加)
- 17日 モリアオガエル今期初産卵(少々遅い)
- 18日 瀬戸市・蛇ヶ洞川調査報告書刊行  
ハンザキ月例健康診断(ウエスコの職員2名と柿木研究員、地域の竹村栄一氏)
- 19日 ハンザキ研ニュースNo.40 刊行・NPO 総会延期のお知らせと共に送付  
GS-283 調査終了(4月28日～)
- 20日 電気増設工事(30A から 120A に)
- 22日 GS-284 調査開始(～5月29日)
- 23日 関西大学第一高校・清水教諭と元・同校教諭・福岡氏来所
- 24日 モリアオガエル8卵塊(今期10卵塊目)産卵あり
- 26日 月例のモンドリ調査・カニ籠調査実施
- 27日 オオサンショウウオ保護センターの遮光ネット設置終了  
今年のキッズ・ラボの打ち合わせ会議(12名)
- 28日 NPO の納税について能見税理事務所へ相談に、約22万円納付
- 29日 GS-284 調査終了(5月22日～)  
三重県伊賀市へ
- 30日 For ever オオサンショウウオ・シンポジウム in 伊賀・青山開催
- 31日 GS-285 調査開始(～6月26日)  
一日留守の間に、生野ダム下流の工事現場からの0歳幼生10個体が水生菌で全滅  
誠和学院・中農理事長来所